

【プロジェクト名】 「教職実践演習」の実施と教員養成カリキュラムの見直し**1 プロジェクトの目的・概要**

「教職実践演習」は教職課程修了時に、形成された教師として必要な基礎的資質の形成について評価・確認するための授業科目である。教職課程履修の全学生を対象として、平成 25 年度後学期から必修科目として開講している。開講を通じて、教職課程履修学生の到達度としての、教師としての基礎的資質形成について明らかにするとともに、その結果をフィードバックすることによって、大学における教員養成のカリキュラム全体の見直しへの発展がなされ、全学的な教員養成の水準の向上や、地域の学校教育の質的向上にも貢献するよう目論まれている。

また、「教職実践演習」では佐賀県教育委員会から指導者の派遣を得るとともに、佐賀市内中学校においても実務演習を実施している。これらの点で、地域のなかで地域とともに教員を養成する具体的な取り組みとなっているので、「教師の養成・採用・研修の一体化」に向けた 1 つのステップとなることも企図されている。

平成 28 年度から一部改訂（選択テーマ A「地域・家庭との連携①」について別パターンの新設、その他）が加わったテキストを引き続き使用し、実施した。

2 令和元年度の実施状況

（成果）今年度から教育学部学生が本演習を履修することとなった。小学校で実務演習を行うクラス（以下「小学校クラス」と中学校で実務演習を行うクラス（以下「中学校クラス」）の受講者数が、昨年度と比較して変動することと、担当者数を減らして授業負担の軽減を行なったほうが良いとの指摘を受け、1 クラス当たりの受講者数を増やしてクラス数を減らした（小学校クラス数：7→6、中学校クラス数：10→8）。また、昨年度に続き、担当者の入れ替えを行なった。9 月 27・30 日の 2 回（同内容）、担当者向けの事前説明会を行ない、実施内容・方法の周知徹底と円滑かつ実質を伴った演習実施への協力を依頼した。クラス編成の仕方については、特に中学校クラスにおける教科ごとの受講者数の変動が今後も予想されるため、事前の協議を入念に行うなどの丁寧な対応を行なっていきたい。

提出された小レポートでは、本演習の支援にあられた指導主事の先生方からの貴重な示唆や、次年度からの教職に向けた具体的な課題の意識化についての記述が多数あった。

（課題）テキスト中の記載について修正を行なったが校正が十分でなく、見苦しい誤記が残ってしまった。2 年後の新版で修正を要する。小学校での実務演習の実施形態については適格な代案の案出に至らず、引き続き取り組むこととなった。教育学部小中連携教育コースの中等主免専攻学生については、今年度は初等クラスの履修者グループに表中で組み入れたが、実態とそぐわないとの指摘があり、次年度以降は中等クラスに組み入れて扱う。

3 今後の予定等

1 月下旬：教職実践演習担当者および受講学生へのアンケート調査実施

1 月 29 日：教職実践演習の本年度最終回